

## 一人の100歩より



この心地よい余韻に、ずっと浸っていたいとの思いの中、飛翔祭は幕を閉じた。

飛翔祭の開催をめぐり、リスクを考え葛藤した日々……。

「できたとしても半日？ 一度に入場できる人数は、いつもの半分以下に？そこで何を？ 飛翔祭の目的は達成できるの？」……。

それでも生徒会、実行委員会は、最高の飛翔祭を実現すると『虹～新時代に希望の光を 460人の個性と感動で～』のテーマを掲げた。その後、模索・迷走したが、あきらめる気配は全くなかった。前向きに取り組む生徒の気持ち、態度は、先生方の心にも火を付けた。

伊藤敦美先生は、何が何でも合唱コンクールを実現させるために、新しい生活様式のもと、『下館中合唱練習ガイドライン』をつくり、指導した。HPにも堂々と掲載された本校のこの取り組みは、福島県南相馬市の教育委員会や兵庫県の大津中学校から是非使いたいとの問い合わせがあるなど、全国でも注目されている。

また、廣瀬竜弘先生は、せめて教室で合唱コンクールが見られるようにと試行錯誤を繰り返し、ライブ中継を実現させた。

もちろん生徒会、実行委員会担当の先生方は、粉骨砕身、最後の最後の瞬間まで大成功を願い、生徒会、実行委員会を支え続けた。

そして、放送によるオープニングから、それぞれの学級のドラマが込められた合唱、楽しいクロージングムービーを入れた閉祭式まで一秒も無駄にしない460+37人の思い、思いやりが込められた新しい時代の飛翔祭が誕生した。

成果は閉祭式の中、合唱コンクールでの成績発表、実行委員長 菅野有美さんの言葉は詰まり、涙が光った。460+37人の彩り鮮やかな一歩が記された。



校長 福田 幸一